

**1. 基本情報**

- (1) 国名：ケニア共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名  
ナイロビ市
- (3) 案件名：ナイロビ高架橋建設・道路拡幅計画 (Nairobi Viaduct and Road Construction Project)
- (4) 事業の要約:ケニア東部からナイロビ市中心部に繋がるエンタープライズ道路の拡幅及び高架橋建設を行うことにより、ナイロビ市内及び北部回廊の交通混雑の緩和を図り、もって持続的な経済・社会の発展の促進に寄与するもの。

**2. 事業の背景と必要性**

- (1) 当該国における道路セクター／ナイロビ地域の開発の現状・課題及び本事業の位置付け

ケニア政府は、国家開発計画「Vision 2030」において、経済開発を3本柱の一つに据え、それを実現するために道路・鉄道・港湾・空港といった運輸インフラの開発を重点課題の一つとしている。また、「Vision 2030」の中期実施計画「第二次中期計画 2013-2017」では、運輸インフラ分野において取り組むべき課題として、首都圏の交通混雑が取り上げられている。

ケニアの首都ナイロビ市では、人口増加(2000年223万人→2010年336万人)、通過交通の増加(ケニア全国の車両登録台数:2006年82万台→2011年162万台)、環状道路の分断による非効率な交通システム等により、渋滞が深刻化し、経済損失や大気汚染・騒音等の自動車公害を引き起こしている。さらに、ナイロビ市の人口は2025年には587万人へと増加し、ナイロビ都市圏の交通渋滞がより悪化することが予想されている。また、ナイロビ市は、東アフリカ最大の国際港モンバサから、ウガンダやルワンダといった内陸国へと続く北部回廊上に位置することから、同市を通過する交通・物流の円滑化は自国の経済成長の促進のみならず周辺国の経済発展にとっても重要である。

ナイロビ市内においては、ナイロビを経て北部回廊を通過する交通とナイロビの中心業務地区(CBD)を起点・終点とする交通とがモンバサ道路(北部回廊の一区間)に集中し、日中のピーク時には車両の平均走行速度が時速10km以下となる区間が発生している。このため、北部回廊からCBDに至る交通を分散化させるため、モンバサ道路と並行するエンタープライズ道路の拡幅や高架橋建設に関する計画がJICAの協力により策定された「ナイロビ都市開発マスタープラン」(戦略的マスタープランの一環)において、優先プロジェクト候補として挙げられている。

本事業は、これら優先プロジェクトの実施を通じて、北部回廊上の主要都市であるナイロビ市中心部の交通集中を分散化し、円滑な物流・市内交通を確保することにより、ケニア国の開発計画の実現に貢献するものと位置づけられる。

- (2) 道路セクター／ナイロビ地域に対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

我が国は2013年6月に開催された第5回アフリカ開発会議において、民間の貿易を促進し、アフリカの成長を後押しするため65億ドルの公的資金をインフラ整

備に投入することを宣言し、また、5大成長回廊への支援を表明した。「対ケニア共和国国別援助方針（2012年4月）」では「経済インフラ整備」を重点分野の一つとしており、本事業は同分野の開発課題「輸送インフラ整備」の中の「ナイロビ都市圏交通網改善プログラム」に位置付けられる。本事業は、これら国際公約や対ケニアの協力方針・分析に合致している。

### (3) 他の援助機関の対応

運輸セクターは、JICAに加え世界銀行（WB）、アフリカ開発銀行（AfDB）、EU、中国等が主要ドナーであり、ナイロビ市内の道路建設やナイロビ市内を起点とする高速道路の建設を支援している。本事業と重複した他ドナーによる事業計画は無く、補完関係・相乗効果が見込まれる。

### (4) 本事業を実施する意義

ケニアの開発課題・政策・計画、我が国の援助方針等に合致しており、本事業の実施を支援することの必要性・妥当性は高い。

## 3. 事業概要

### (1) 事業概要

#### ① 事業の目的

ケニア東部からナイロビ市中心部に繋がるエンタープライズ道路の拡幅及び高架橋建設を行うことにより、ナイロビ市内及び北部回廊の交通混雑の緩和を図り、もって持続的な経済・社会の発展の促進に寄与するもの。

#### ② 事業内容

- i. 土木工事、調達機器等の内容：高架橋（1,000 m 及び 400 m）、エンタープライズ道路の拡幅（2車線→4車線）、エンタープライズ道路の歩道整備、及びバスターミナルの移設
- ii. コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：設計・施工監理、入札補助等
- iii. 調達・施工方法：（※協力準備調査にて確認）

#### ③ 他の JICA 事業との関係

2012年～2014年にかけて技術協力「ナイロビ都市開発マスタープラン策定プロジェクト」を実施し、ナイロビ市の都市開発の方向性を明確化し、本事業を含む優先プロジェクトを選定した。また、技術協力「北部回廊物流網整備マスタープラン策定支援プロジェクト」（2015年～2016年）を通じて北部回廊上の物流のボトルネックを確認中。更に、ケニア都市道路公社を含めた道路管理機関に対して、道路の維持管理業務の外部委託化に係る技術協力「道路メンテナンス業務の外部委託化に関する監理能力強化プロジェクト（フェーズ2）」（2013年～2015年）を実施中。

### (2) 事業実施体制

① 借入人：ケニア共和国政府（The Government of the Republic of Kenya）

② 事業実施機関／実施体制：ケニア都市道路公社（Kenya Urban Roads Authority: KURA）

③ 他機関との連携・役割分担

WBが北部回廊（ジョモケニヤッタ国際空港～リロニまでの区間計45km）の拡

幅・改良及びナイロビ中央駅周辺の再開発に関する調査を支援中。

④ 運営／維持管理体制

実施監理・維持管理（外部委託含む）は KURA が担当する。過去の無償資金協力及び技術協力の実施に当たっては、KURA の実施機関としての能力は技術面・資金面ともに問題ないとの判断であったが、再度協力準備調査にて確認する。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 □A ■B □C □FI

② カテゴリ分類の根拠：本事業は「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる道路・橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

(4) 横断的事項：特になし。

(5) ジェンダー分類：分類未定。

(6) その他特記事項

本事業で建設予定の高架橋は梁間が長く、また、交通量の多い道路からの取り付けが予定されていることから、工期の短いかつ工場生産を組み入れた本邦の鋼橋技術の活用が見込まれている。

**4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用**

ケニアの道路セクターの他の案件からは、先方政府が事業対象地域の埋設物の位置の確認及び移設の予算確保に時間を要したことから、スケジュールが大幅に遅延したとの教訓を得ている。当該教訓を踏まえ、協力準備調査を通じて事業対象地域にある埋設物の位置情報及び移設費用の概要を把握するとともに、先方負担事項については実施機関や財務省を含む関係省庁に対して文書にて確認し、かつ、予算確保及び実施に向けた動きをモニターしていくことが必要。

以 上

[別添資料] 地図

ナイロビ高架橋建設・道路拡幅計画 地図

